

新穂高温泉から北に延びる 百名山 テント泊縦走

○とき 2026年8月7日金夜～11日火夜

○山域 北アル 双六、三俣、鷲羽、水晶岳

○参加 4名

<行程> 全43km 全32時間



1日目)6:42 新穂高 B 停から入山。鏡平小屋手前から小雨となり穂高連峰は見えず。鏡平小屋までの登りは寝不足もありしんどかった。双六テント場でも夜中に雷雨にあった。

2日目)天気も回復。三俣山荘までの水平道は長く山荘が見えるとホットする。三俣山荘を5分歩くと伊藤新道の分岐で鷲羽岳登りが始まる。山頂は雲の中。ワリモ岳に下り、登りが始まる。ワリモ北側分岐に出ると雲の平からのコースに合流。雲の平の山荘が見える。水晶小屋にチェックイン、水晶岳は南峰・北峰に岩場ありハシゴ鎖ありゆっくり歩いて40分位で着く。

岩稜帯を過ぎるとなだらかで小屋に戻る。小屋のテラスに立つと東正面に野口五郎岳が大きく座っている。最高のロケーション、風もなく最高の気分。小屋のスタッフは5人 定員40人宿泊で2回に分けて南インドカレーの夕食。20 時消灯は早く、水がないためボトル 500cc 販売している。

小屋のグッズやTシャツ 7000 円でよく売れている。小屋の周りで雷鳥の目撃情報があった。宿泊者の半数は読売新道を黒部に向かう人や赤牛岳ピストンする人が多い。

3日目)5 時の朝食、6 時小屋を出発、岩苔乗越から黒部源流に下り、分岐から三俣山荘に登る。三俣蓮華岳、双六岳を經由して双六山荘テント場着。この日は日本アルプス トレール大会が行われランナーの中継地点になっている。初日の濡れたテントを乾かしながらテントの外でワイン盛りに早めの夕食とする。

4日目)3 時起床、4:30 発。弓折稜線に出ると東から日出とともに穂高連峰から槍ヶ岳が手に取るように見える。アルプスの最高の景色を眺めることが出来た。台風 15 号にも合わずラッキーな山行だった。

